

12.10しまね総がかり集会

「安倍改憲ノー」広げよう

市民と4野党が訴える



しまね総がかり行動実行委員会は12月10日、松江市で集会を開き、250人が参加しました。市民と野党の代表が

そろい、安倍政権が狙う9条改憲阻止に向け、3000万署名を広げることを確認しました。

明治学院大学非常勤講師の政治学者・木下ちがや氏が講演。国民世論は改憲反対が多数であり、「安倍改憲に反対する」という一致点を、市民と野党がどれだけ広げられるかが問われている」と強調しました。

リレートークで、安保関連法に反対するママの会@島根の橘ふみさんは「平和はすべての権利の土台です。平和憲法の根

くらしと命を守ります

党県議団 団長

幹事長

尾村 利成
大國 陽介



打撃となるTPP推進、社会保障切り捨てと消費税増税は地方創生に逆行するものにほかなりません。

県議の仕事は、県民の命と安全を守ることです。県民のくらしが困難に直面している時、安倍政権のすすめる間違っ

た政治を県政に持ち込むのか、それとも、立ちはだかつて、県政が県民のくらしの防波堤となる役割を果たすのかが鋭く問われています。

県政は、国に対し、県民の立場で発言・行動し、国いなるの政治から脱却し、「住民の福祉を増進する」自治体本来

政治には県民の命がかかっています。新しい年もみなさんと固く団結し、「くらしと命を守る議席」として全力で奮闘する決意です。
安倍政権がすすめる大企業だけが潤う「アベノミクス」、地域産業の

の仕事に全力を尽くす時です。昨年秋の総選挙で、安倍首相が最も恐れていたことは「市民と野党の共闘」の成功でした。第二自民党の希望の党が誕生し、野党共闘が崩壊の危機に立った時、日本共産党は「逆流と断固たかう」「共闘を決して諦めない」という二つのメッセージを発信し、直ちに行動を開始しました。
日本共産党は、憲法を守り生かす政治を実現するために、引き続き、市民との協力を重視し、野党共闘の道とことん追求します。
共同をさらに発展させて、「原発ゼロ」「くらし最優先」の安全・安心の島根を一緒につくります。

保育・介護の充実を

福祉保育労が県に要望

福祉保育労島根支部は12月19日、県に対し、介護保険の充実と保育制度の拡充を求める要望書を提出し、介護・保育現場の願いに心を寄せ、実効ある施策を講じるよう求めました。

声を上げ続けることが大切になります。みなさんと一緒に頑張ります」と決意表明。日本共産党の尾村利成県議(写真)、民進党の角智子県議、社民党の足立昭二元県議がいさつしました。

介の両県議、後藤由美出雲市議、向田聡安来市議が同席しました。(写真) 特養ホームで働く介護福祉士らは「日々の残業やケアマネージャー、施設管理者などの応援を受けて何とか介護している状況です」と述べ、人員不足や過重負担で十分な介護ができない実態を語



りました。県の担当者は「現状では介護職員が不足していると認識している。国に賃金の改善を求めるとともに、県としても人材確保対策に取り組んでいる」と答えました。保育士や栄養士らは

沖繩の基地闘争—過去、現在、未来—

沖繩ツアー日記④

「沖繩と連帯する島根の会」の中林佳子さんの呼びかけで9月12・15日・3泊4日の沖繩ツアーが企画されました。松江から11人、出雲から3人の計14名が参加しました。(文責・YU)

■9月15日(金) 最終日 平和記念公園を見学
摩文仁平和祈念公園(沖繩南最先端)は、地形が変わるほど艦砲射撃が行われたところだ。

24万1468名の膨大な名前が刻まれた慰霊碑が県ごとに整然と設置されていた。その中に「島袋武雄の長女、島袋武雄の長男」と刻まれた碑がありました。一家全員が亡

くなつたため、名前が分からなかったのでしょう。島根県の碑もありました。おそらく、ほとんどが沖繩戦に送り込まれた兵隊だったと思います。沖繩戦最高司令官の牛島中将が自決した岩山を望む場所にありました。
瀬長亀次郎の「不屈館」を訪ねました。那覇市長から初の衆議院議員になり、獄中生活も経験された

「1歳児は発達差が大きく、けがも多い。子ども6人に保育士1人の配置では安全に保育できない」「特に卵アレルギーの子どもが増え、対応に手いっぱい」の状態です。など現在の職員配置基準では子どもの安全が守れない実態を語り、県独自の処遇改善や職員配置の充実を強く求めました。

中国ブロッカー斉宣伝

1月12日(金)

毎月第2金曜日は、中国ブロッカーいっせい宣伝日です。すべての機関、議員、支部、後援会が宣伝行動に取り組みましょう。



不屈の人。生活を共にした次女さんから、亀次郎の人となりなどの説明を受けました。「米軍が最も恐れた男カメジロー」で映画化もされています。沖繩の守るべき貴重な自然が無法に破壊される現状。それに立ち向かう沖繩の人々の不屈の精神と行動に接することができました。沖繩の人にとっては苦しい日々だったと思いますが、根は明るい方が多いのが何よりの救いでした。(終り)